令和７年１月１６日

令和６年度 世田谷区立桜町小学校 学校自己評価報告書

桜咲く深緑の学び舎
世田谷区立桜町小学校
校 長 中 村 泰 之

１ 本校の教育目標及び経営方針

今年度は年度当初に以下のように経営方針を示した。

学校経営の基本理念

（１） めざす学校像（経営方針）

本校の教育目標
- ○ 考え深い子ども　自ら学び、よく考え判断し、協働することで学びを深める子ども
- ○ やさしい子ども　多様性を認め、人や自然を敬い、助け合う子ども
- ○ たくましい子ども　心身共にたくましく、やり遂げようとする子ども

教育は信頼から

「子どもが自ら学び、内から育つ学校」

～子ども一人ひとりが学習を自分事として捉え、学びがいや喜びを感じ、よりよく育つ学校～

全ての教育活動の根底にある理念
「はじめに子どもありき」

「子ども観」
- 子どもはよくなろうとしている。
- 子どもは本来能動的な学習者である。
- 子どもは自ら探究し内から育つ力をもつ。

「授業観」※教育の質の転換
- 学習の主体者は子どもである。
- 子どもの事実に立つ。
- 子どもと共に創る授業。

本校の今年度の重点目標

１「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

○子ども一人ひとりの多様な個性や能力を伸ばし、変化の激しい時代を生きるために必要な資質・能力を培い、生涯を通じて学び、地域社会で活躍できるようにするため、生活科・総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラム・マネジメントの研究を推進し、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わい、「今の学びが将来につながっていること」や「学びは本来ひとつのものであること」を実感できるようにする。

２　教育ＤＸの推進

○一人一台のタブレット端末を学習の基盤ツールとして活用することで、多様な学びの機会を保障する。その際には使い方を自律的にコントロールできるようにする。ICT の活用により、習熟度や学習の進度、興味・関心等、児童の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」、異なる考えや価値を組み合わせ、探究的な学習や体験的な活動を通した「協働的な学び」の充実を図る。

３　多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて

○人権教育を基盤として、互いを尊重し合う心情、自尊心や自信を育成し、自己肯定感を高める。多様性を理解し他者や自然を尊重し、あらゆる差別や偏見をもたず、相手の立場に立って行動できる心情を培う。

４　地域社会と協働した教育の推進に向けて

○キャリア教育につながる生活科・総合的な学習の時間の単元開発をより充実させ、商店街や地域の美術館、専門学校や農業高校と連携した学びを構築していく。子どもたち自身が地域に出向き、そこでの探究的な活動を展開できるような学びを創造していく。地域の役に立つ喜びを子ども一人ひとりが実感できるようにする。

５　「学校における働き方改革」の推進に向けて

○「質の高い学び」と「持続可能な学校」を同時に実現するために、今後予定されている研究発表等についても、形骸化されたものは削減し、より実のあるものにしていく。

◇今年度の重点目標と改善方策（令和５年度末に設定した内容）について

令和6年度の重点目標

本校の今年度の重点目標

1「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

子ども一人ひとりの多様な個性や能力を伸ばし、変化の激しい時代を生きるために必要な資質・能力を培い、生涯を通じて学び、地域社会で活躍できるようにするため、生活科・総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラム・マネジメントの研究を推進し、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わい、「今の学びが将来につながっていること」や「学びは本来ひとつのものであること」を実感できるようにする。

〈改善方策〉

アンケート結果及び関係者評価委員会報告書からも、学び合いの場は十分に創出できており、それを児童も実感していることがわかる。今後も共感・協働の学びにおいて、発言は得意ではないが静かに考えている児童の思いや考えを共有することの重要性を浸透させていく。

加えて、総合的な学習の時間において、地域での体験活動、探究活動が増え、地域の方々から感謝される場面が増えていることは、今後子どもの意識によい影響を及ぼしていくものと考えられる。校内研究を通して生活科・総合的な学習の時間の活動内容をさらに充実させ、地域を学びの場とした学習活動を展開していく。

〈成果と課題〉

キャリア教育に関する項目「自分の生き方や将来のことについて、考える授業はある」について、肯定的回答が５年生 77.9%、６年生 64.4%。「わたしは、自分の将来に夢や希望をもっている」は５年生 84.9%、６年生 74.8%となり、10%高くなる。「目標をもち、その実現に向けて努力している」は５年生が 91.5%、６年生が 87.4%とさらに高くなる。本校では職業調べのような総合的な学習の時間の活動は行わず、子どもたち自身が探究したい内容を行っている。そのことがこのような数値の変容になっていると考えられる。探究的な活動を通して身に付いた力が「自分の生き方や将来」に結びつくのだというフィードバックをキャリアパスポート等の活用を通して、さらに意識的に行っていくことが必要である。

２ 教育DXの推進

一人一台のタブレット端末を学習の基盤ツールとして活用することで、多様な学びの機会を保障する。その際には使い方を自律的にコントロールできるようにする。ICT の活用により、習熟度や学習の進度、興味・関心等、児童の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」、異なる考えや価値を組み合わせ、探究的な学習や体験的な活動を通した「協働的な学び」の充実を図る。

〈改善方策〉

これから個別最適な学びを実現していくためにも、タブレット端末の活用は必須である。

その一方で、その使用時間や使い方において自己管理能力が求められている。真に役立つ文房具としてタブレット端末を活用するために、教員の意識を高め、子ども自らが理想的な使い方ができるよう常に機会を捉え指導していく。

〈成果と課題〉

「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」については、５年生 95%、６年生 81.2%である。日常の学習において ICT 機器の活用は定着し、様々な場面で探究的に使用されていると考えられる。加えて「先生は課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」は５年生 99%、６年生 81.1%である。概ね満足できるがさらに推進する。

3　地域社会と協働した教育の推進に向けて

キャリア教育につながる生活科・総合的な学習の時間の単元開発をより充実させ、商店街や地域の美術館、専門学校や農業高校と連携した学びを構築していく。子どもたち自身が地域に出向き、そこでの探究的な活動を展開できるような学びを創造していく。地域の役に立つ喜びを子ども一人ひとりが実感できるようにする。

〈改善方策〉

今年度、かなり活動が充実したが、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域に根差した教育活動をさらに具現化していく。地域との連携を深め、学びの場を学校の外へ創っていくことで子どもたちが必然を感じながら生き生きと探究的に学ぶことにつながると信じている。

〈成果と課題〉

12 月にキャリアアワード 2024 奨励賞を受賞した。本校のキャリア教育が評価されたのである。これは、今年度も地域の「ひと・もの・こと」を探究活動の対象とし生活科・総合的な学習の時間で取り組み、活動内容が充実してきたからに他ならない。教職員の意識が変わり、地域を学びの場とすることで子どもの学びがより充実することを実感するに至っている。

しかし、アンケート結果を見ると「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」について、保護者全体 67.4%、地域 88.9%である。保護者については学年によるばらつきも見られる。地域の方々は直接教育活動に協力いただく場合も多いのでこのような結果になると思われる。保護者の方々に地域での教育活動への協力をお願いすることも増えてきているので、今後学校からの発信の充実を含めてこの数値は上昇すると予想している。

上述した以外の年度当初に周知した重点目標「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」については、わかくさ学級との交流の充実をはじめとして様々な教育活動の場面で意識的な指導を行っている。加えて我々教師をはじめとした周囲の大人の思考や言動が大きな影響を与えると考えられるので、子どもの模範となるよう留意していきたい。

重点目標「「学校における働き方改革」の推進に向けて」については、創造的余白を生むために仕事内容の精選等は必要なので組織的に取り組んでいく。しかし、世田谷区の研究指定校及び世田谷区小学校教育研究会の研究推進校としての研究についてはさらに充実を図る。我々教師の授業力をはじめとした様々な力を向上させることが、授業改善につながり、そのことが結果的に働き方改革を推進すると考えるからである。

今年度本校は保護者や地域の方々の協力と応援を得て、教育活動を充実させることができた。今後も学びの場を学校の外に広げていくことが求められている。子どもが本物の社会と接し、課題意識をもち、探究していくことが子どもの生きる力を伸ばすからである。学校の中だけで学びが完結する時代は終わった。来年度もこの方向性を維持しより充実発展した教育活動を展開したい。そのことが「子ども一人ひとりが学習を自分事として捉え、学びがいや喜びを感じ、よりよく育つこと」につながると信じるからである。